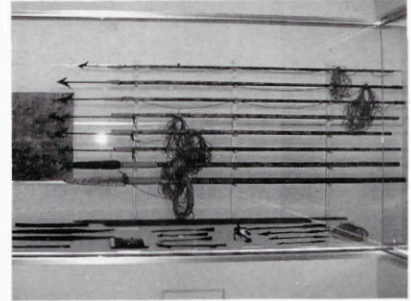


＝特集＝

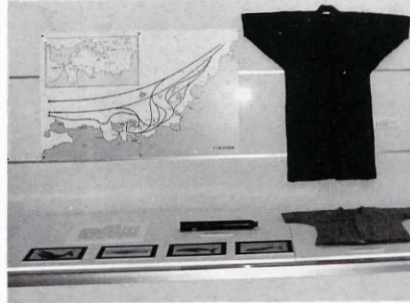
くじら資料館



通浦は内海といわれる仙崎湾の突端にあり最初に鯨を発見できた。この見張り役（山見）ののろしを合図に一齐に船をこぎだす。

指揮船、鯨追船、網船、荒手縄船などが一団となって追い込み、モリやケンなど使い仕留めるまで、鯨と人間の死闘がくりひろげられた。

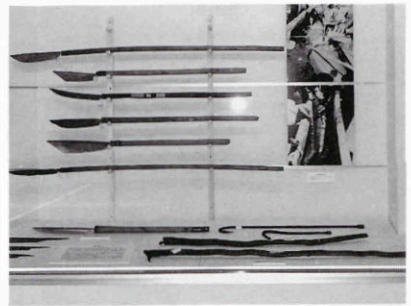
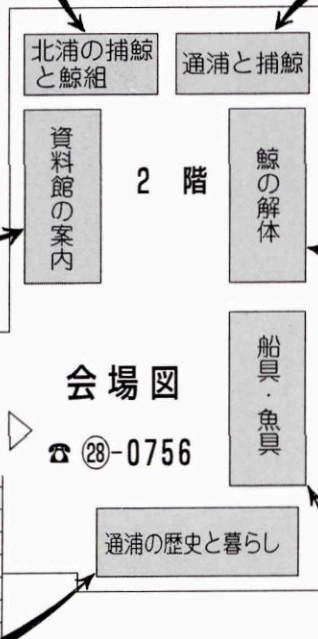
北浦の捕鯨は、旧歴の10月から3月までを漁期とした。この期間は、鯨が出産と育児のために南下する時期で、湾内に入ってくる鯨を待ち受けていた。捕鯨は危険な作業で、300人からなる鯨組を組織して、共同作業で取り組んだ。



漁民の生活や信仰の中から、鯨に関わって生きてきた人々に出会うことができます。

捕鯨という共同作業は、連帯感を強め、同時に弱者へのいたわりも育んできました。

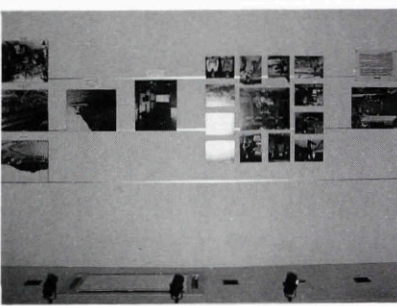
資料館の展示品は、こうした歴史を十分感じさせてくれます。



解体は田ノ浦の浜で主に行われていた。

浜には旦那小屋と呼ばれる、鯨をさばく道具を取めた納屋があり、ロクロが2つあった。

大包丁を入れる前に親父やスザシなどが、唄を歌い踊っていた。

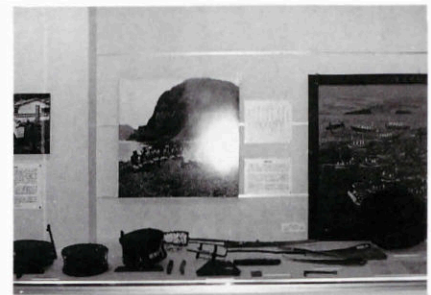


通浦の青年宿

貧富に関係なく、年齢によって社会的役割を分担する制度が古くからあった。

アカーモンの集団（若者組）で、海難救助、漁業の共同作業、礼儀など、漁村に必要な青年教育を、漁民自らがづくりあげた制度だった。

エビスパン
鯨船の船先につけ魔除け海上安全など、信仰的な意味をもっていた。カガリ
船のあかりや船底にかがし防腐、防虫駆除に使用。鉄の受けの部分で、松明を燃やした。



入館時間
午前9時～午後4時30分
休館日 毎週火曜日
(12月29日～1月3日)

入館料
18歳以上 200円
6歳～18歳未満 100円

問い合わせ先
くじら資料館
☎0837(28)0756

構造 鉄筋コンクリート
2階建

延床面積 298・44㎡

総事業費 9千万円

主要施設
一階 伝習室・事務室
二階 展示室・収蔵庫

展示品
・重要有形民俗文化財 (昭和50年9月国指定)
・長門の捕鯨用具 140点
・通浦の捕鯨史
・通浦の漁業文化に関する品